



全体構想

II 全体構想

1. まちづくりの理念

本市のまちづくりの進捗等を踏まえ、本市の特性を活かした今後のまちづくりを進めるための理念として、以下の「まちづくりのテーマ」を掲げます。

まちづくりのテーマ

活気ある暮らしやすいまち こくぶんじ

本市は、市域の大部分が住宅地となっている住宅都市であるとともに、武蔵野の面影を今に残す豊かな緑、武蔵国分寺跡に代表される歴史文化が息づいており、こうした市の特性を守り・育てていくことが本市のまちづくりにおいては重要です。

一方で、超高齢社会を迎え、人口減少の課題が迫るなか、都市機能の更なる充実やまちの活力を高めていくことが必要です。本市の将来人口推計では、平成32年までは人口の増加が見込まれているものの、その後は緩やかに減少することとなっています。長期的な視点に立ち、若い世代の人も子育てがしやすく住み続けたいまちを目指し、人口の増加にもつなげていくことが必要です。

そこで、本市のまちづくりは、地域の特性を活かしながら、快適な住環境づくり、自然・歴史文化の継承、生活の利便性の向上、産業の活性化など、本市の魅力を最大限に高めていくことで、まちづくりの未来の担い手となる子どもたちを含め、現在、本市に住む全ての世代の人が『活気ある暮らしやすいまち こくぶんじ』と感ずることのできるまちとしていくことが必要です。

その結果、本市に来たい、住みたいと思う人が、より増えることにもつながります。

そのためにも、市民と事業者等と市が手を取りあって、協働のまちづくりにより『活気ある暮らしやすいまち こくぶんじ』の実現を目指します。

2. まちづくりの目標

都市マスは、概ね 20 年後を目標に、市民にとって住み続けたい都市となるよう、市民と市が共有するまちづくりの目標として、本市の将来のあるべき姿としての「国分寺市が目指すまち」と、その実現によってもたらされる「まちで暮らす市民の生活像（イメージ）」を示します。

2-1. 国分寺市の将来のあるべき目標都市像（国分寺市が目指すまち）

本市の目指すまちの姿を以下に示します。

なお、ここに掲げた「歴史文化」、「水と緑」、「健康」、「安全・快適」といったキーワードは、市民意識調査結果の目指すまちの姿として重視すべきキーワード（p.9 参照）として多くの人に望まれており、更に、本市の未来のまちづくりの担い手となる子どもたちが望む将来のまちの姿（次頁参照）でも挙げられています。

歴史文化を継承・創造し、水と緑が生活にうるおいを与えるまち

- 武蔵国分寺跡をシンボルとした歴史文化資源、農地や武蔵野の面影を残す屋敷林、用水路等の水と緑の自然資源等、先人の遺したうるおいある風景を保全、継承します。
- 歴史文化資源、水と緑の自然資源等を活かし、演出することで、次代に誇れるより豊かな都市空間（まちなみ・景観等）を備えたまちを目指します。

誰もが健康で、安全・快適に暮らせるまち

- 買い物や地域での交流など日常生活において、快適で利便性の高い都市生活を営むことのできるまちを目指します。
- 高齢者や障害者を含むすべての人々が、地域社会の一員として健康に暮らせるまちを目指します。
- ゆとりあるまちなみを備え、日常の中で有効に利用され、親しまれている水と緑の資源が、災害時には市民の生活、生命、財産を守るなど、安心して暮らせるまちを目指します。
- 人と人のつながりを大切に、住民どうしが互いを見守りながら、安心して暮らせるまちを目指します。

未来を見据えた魅力あるまち

- 社会経済情勢の変化を適切にとらえ、未来を見据えて、将来にわたって魅力ある暮らしを営むことのできるまちを目指します。
- 市民や事業者等と市がそれぞれの役割を担い、協働のまちづくりを進める活気に満ちたまちを目指します。

子どもたちが望む国分寺市の将来のまちの姿

都市マスの見直しにあたり、市内の小学生（第二小学校6年生、第七小学校5年生）を対象とした特別授業を実施しました。（平成 26年 11 月実施）

特別授業では、「まちづくり」の必要性を学んだ後、みんなが望むまちの姿をグループに分かれて話し合いました。



僕たち、私たちがつくる将来のまちのキャッチコピー

グループワークで考えた将来のまちのキャッチコピーでは、キーワードとして「歴史・伝統が残るまち」や、「緑・自然が多いまち」、「誰もが住みやすいまち」、「買物がしやすい便利なまち」等といった意見が挙げられています。



第二小学校6年生（4クラス）

- みんなが すみやすい町
- 自然がたくさんある大きな公園・伝統を大切に
- お店が近くて暮らしやすいまち
- 緑が多いまち、住みやすいまち
- 暮らしやすく 緑が多いまち
- みんなが駅やお店に 行きやすいまち
- 住む人にやさしい町（空気がきれい等）
- 住民同士の交流が多い街
- 公園があり、駅やお店が近い町
- 明るくて安全な町
- 緑や公園等で人の心が安らげる、きれいで安全なまち
- 住みやすい便利な町
- 緑&豊か&便利&過ごしやすい&安全&何でもあるまち
- 住宅地と自然が両立し、安心できるまち
- 子供からお年寄りまで健康に暮らせる便利な町

第七小学校5年生（2クラス）

- 第2の新宿 サッカー輸出大市
- 子どもが遊べるまち・緑がたくさんあるまち・楽しいまち
- 安心・安全、住みやすい、行きたい、大きな公園がたくさんある町（だれもが幸せになれるやすらぎの場・スポット、安全で公園がある住みやすい町）
- 大きい公園、自然があるまち
- 楽しく遊べるところをたくさん作る
- ①安心・安全・国分寺・②自然と歴史がのこる町
- 緑豊かな町

※子どもたちの意見を原文のまま掲載しています

- 緑が多い町・歴史がある町（伝統）・快適な町
- きれいで環境に良いまち
- 歴史ある緑がある町
- 近くに大きな公園があって遊びやすいまち・買物がしやすいまち
- 自然が多くて便利なまち
- 自然があふれていて 人々が住みやすいまち
- 自然豊かなまち
- 人がにぎわう町
- 建物もあるが 緑もあるまち・高い建物で住宅街が影にかくれないようなまち
- 緑と活気があふれるまち
- 環境にやさしい便利なまち
- 子供たちがのびのびと遊べて学べるまち
- 自然豊かで住みやすいまち
- 自然が多くて住みやすいまち
- 自然が豊かで便利／安全・スポーツ・史跡
- 人と緑が豊かなまち
- 自然が豊かで便利な町

- 5mに1本は木がはえている 緑と建物が調和している 便利な町
- ハイテクで自然のあるまち
- 自然と化学と歴史と商業がたくさんあるすばらしい街
- 都市化したまち
- 高層ビルが多く、商業がさかんな町
- 緑があり、自然がいっぱいあるまち
- 駅付近は都市化し、はなれた所では緑・歴史
- 楽しく、住みやすい町／車が走りやすくて、人が歩きやすくて、自転車も走りやすい町
- 都会、緑、歴史が集まる住みやすい町

2-2. まちで暮らす市民の目標生活像（イメージ）

目標都市像を踏まえ、まちで暮らす市民の生活像（イメージ）を以下に示します。

利便性と快適性を兼ね備えた都市生活

- 住宅・農業・商業・工業の調和した都市構造が、地域の暮らしを支え、豊かにする商業、市民の暮らしと共生する農業等、本市の活力が高まり、市民は利便性と快適性を兼ね備えた都市生活を営んでいます。

歴史文化を感じ、うるおいある環境に育まれた暮らし

- 武蔵国分寺跡をシンボルとした歴史文化資源や、水と緑や農地等の自然資源は、うるおいある豊かな都市空間をつくりだすとともに、それらを活かした祭りや市民交流を行うことで、歴史文化が継承される舞台となっています。
- また、うるおいある豊かな都市空間で、市民は本市の気候風土や四季折々の変化を快適に感じ、土・木・水等を身近に感じながら環境とともに生活しています。

活気に満ち、快適で利便性の高いまちに支えられた魅力ある暮らし

- 駅周辺は、商業地として魅力ある環境を備えています。同時に、地域の顔、地域交流の舞台として、公的施設や広場など文化を育む環境が整えられ、多くの市民が集い、賑わっています。

緑豊かで利便性の高い道路・交通網に支えられ、地域の魅力を身近に感じる暮らし

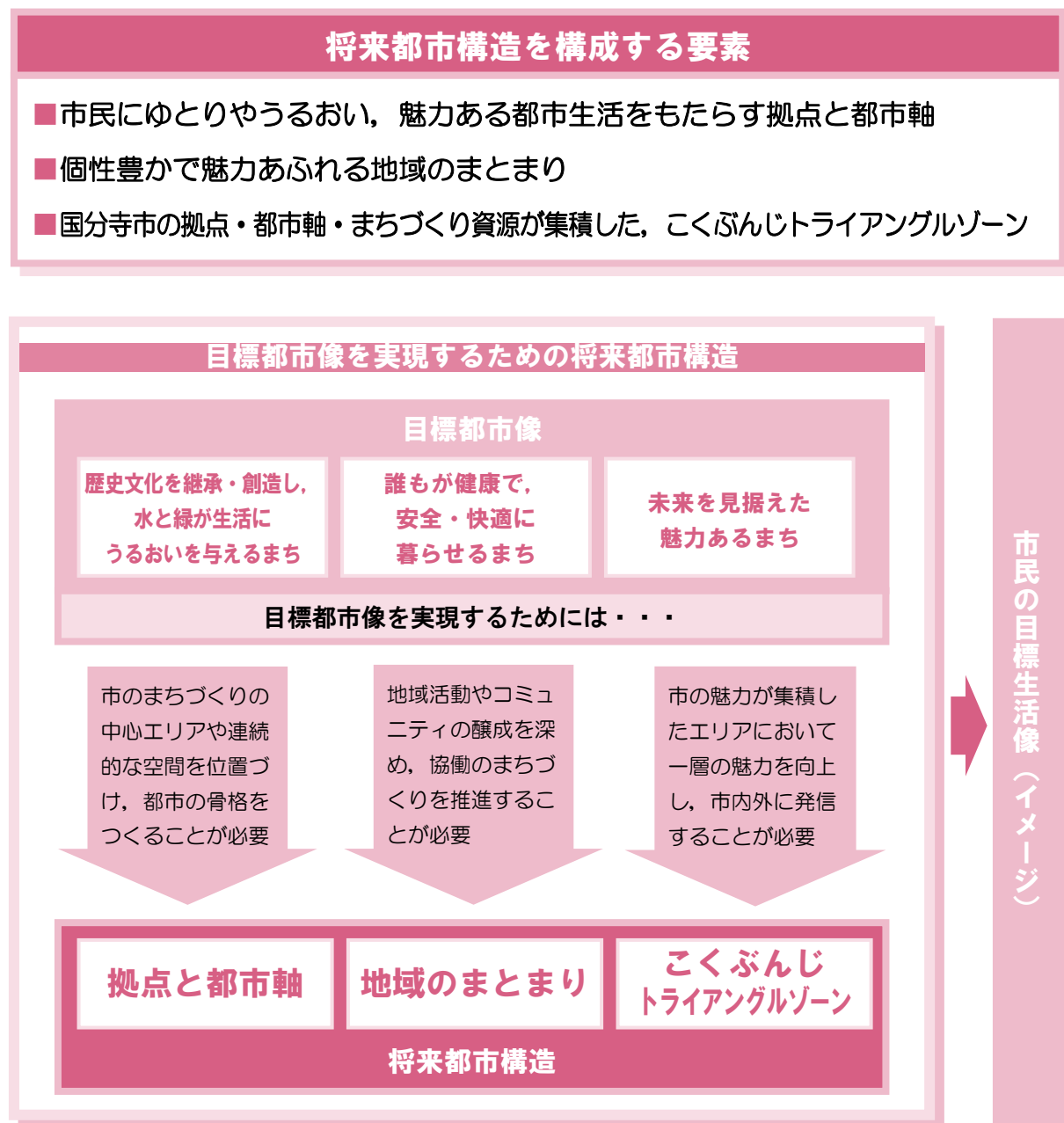
- 市民は自転車でも、徒歩でも、車椅子でも、安全・快適に市内を移動することができます。また市内の各拠点を連絡する都市基盤が充実しているとともに、沿道の並木や屋敷林等が一層緑豊かな都市空間をつくっています。

人と人のつながりや安全で快適な環境に育まれた豊かな暮らし

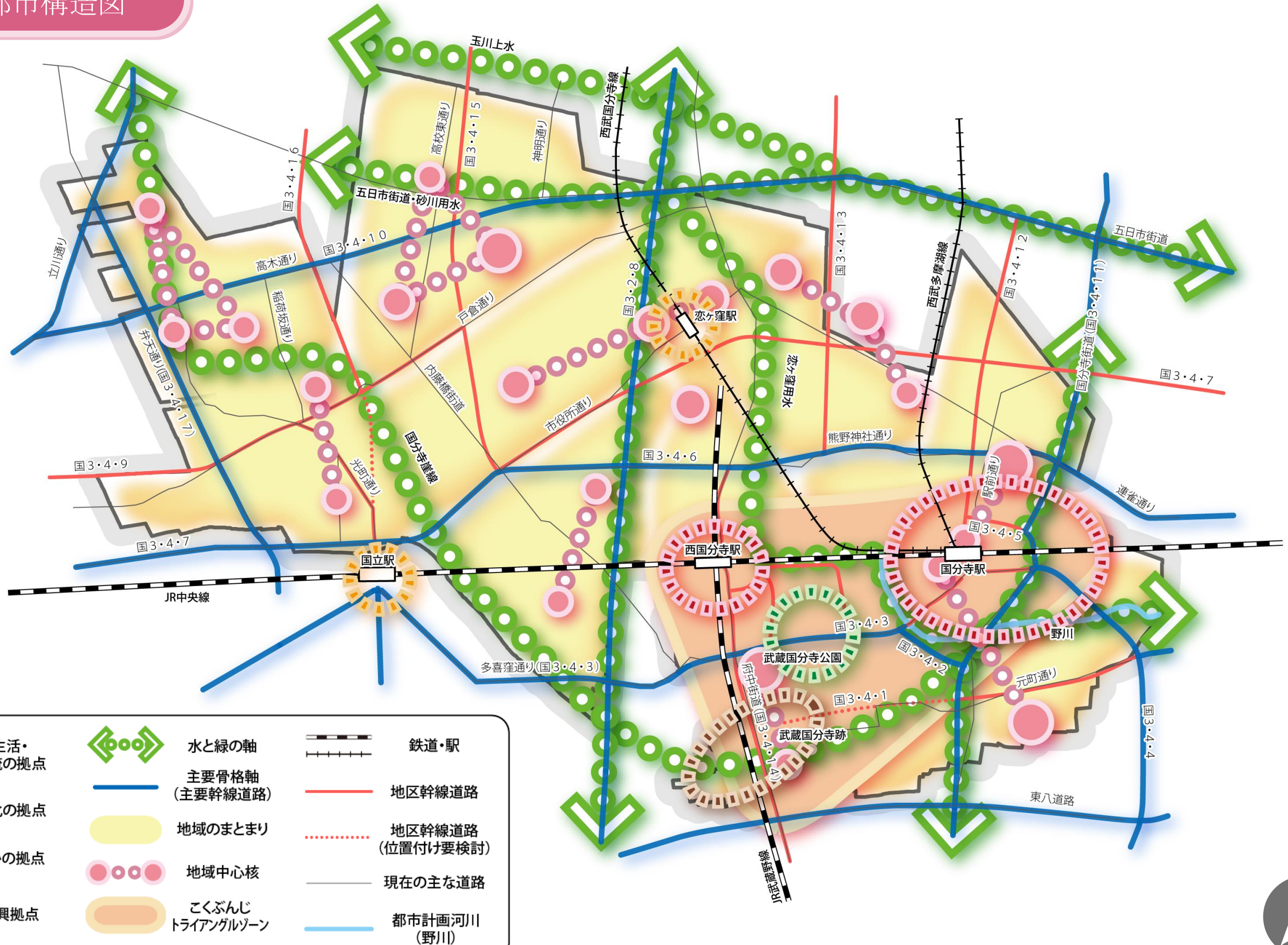
- 日常の生活の中から文化を育むとともに、地域にふさわしいまちなみを自らの手で作りだし、魅力ある景観の中で豊かに暮らし、住み続けています。
- また、ここでは、誰もが遊び、集い、学ぶことのできる身近な公共施設等を中心として、交流が育まれています。人と人が密接なつながりを持ち、住民どうしが互いを見守りながら、災害に備えたり、犯罪のないまちをつくり、誰もが安心して暮らしています。

3. 将来都市構造

まちづくりの目標と様々な分野別の計画を踏まえ、本市の骨格を成す要素を、拠点・都市軸、まとまり等の視点から整理した「将来都市構造」を以下に示します。



将来都市構造図



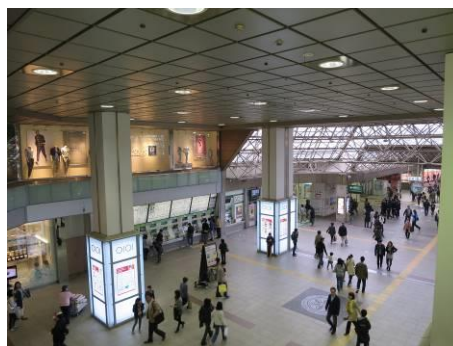
3-1. 市民にゆとりやうるおい、魅力ある都市生活をもたらす拠点と都市軸

<拠点の位置づけ>

■ 駅、史跡、大規模公園等を中心とした一帯において拠点を位置づけ、まちの資源や立地条件を活かしながら、本市の魅力を育み、まちづくり、地域活動等の中心となるゾーンをつくります。

[都市生活・文化交流の拠点 / 国分寺駅周辺, 西国分寺駅周辺]

- ・ 鉄道の交通結節点で、商業・業務の集積地となる国分寺駅、西国分寺駅一帯は、多くの人々が集まり、様々な文化交流の創出が期待されることから『都市生活・文化交流の拠点』と位置づけます。
- ・ 国分寺駅一帯では、整備を進めている国分寺駅北口再開発事業を契機として、駅一帯を高質で豊かな都市生活を支える魅力あるエリアとなるまちづくりを推進していきます。
- ・ 西国分寺駅一帯では、駅北口周辺において駅前の立地を活かした都市基盤の整備や利便性の高いまちづくりを推進します。また、西国分寺駅は、泉町周辺の今後の土地利用も見据えた玄関口として期待されることから、それらを踏まえた魅力ある都市生活の充実を図ります。



■ 商業・業務の集積地であり、多くの人々が集まる国分寺駅

[地域振興拠点 / 恋ヶ窪駅周辺, 国立駅周辺]

- ・ 恋ヶ窪駅、国立駅北側一帯は、駅周辺に広がる良好な住宅地や農地に囲まれた地域の身近な交流の拠点として、日常生活の利便性の向上を図るとともに、周辺の地域資源を活かすことで更なる発展を遂げるエリアとしても期待されることから『地域振興拠点』と位置づけます。
- ・ 恋ヶ窪駅一帯では、地域住民が日常生活の中で利用する恋ヶ窪駅を中心に、新庁舎建設の動向も踏まえ、国3・2・8号線の機能を活かした地域の利便性を高めるまちづくりを推進します。
- ・ 国立駅北側一帯では、国立駅が位置する国立市との連携を図りながら、商業施設が立地する駅周辺の特性を活かした地域の利便性を高める身近な商業空間としてのまちなみを形成します。

[歴史文化の拠点 / 武蔵国分寺跡周辺]

- ・ 武蔵国分寺跡一帯を『歴史文化の拠点』と位置づけ、武蔵国分寺跡の整備を推進するとともに、周辺の歴史文化資源を活かしながら、歴史文化にふれられるまちづくりを推進します。

[ふれあいの拠点 / 泉町周辺]

- ・ 泉町周辺を『ふれあいの拠点』と位置づけ、泉町公園（武蔵国分寺公園）を活かした地域の交流を促すとともに、周辺の公共用地の活用を見据えた誰もが気軽に交流できるまちづくりを推進します。



■ 史跡整備が進む武蔵国分寺跡

<都市軸の位置づけ>

■崖線や河川、用水路、主要幹線道路等の軸状の連続的な空間を都市軸と位置づけ、都市生活の安全性・快適性を高めます。

[主要骨格軸 / 主要幹線道路となる都市計画道路]

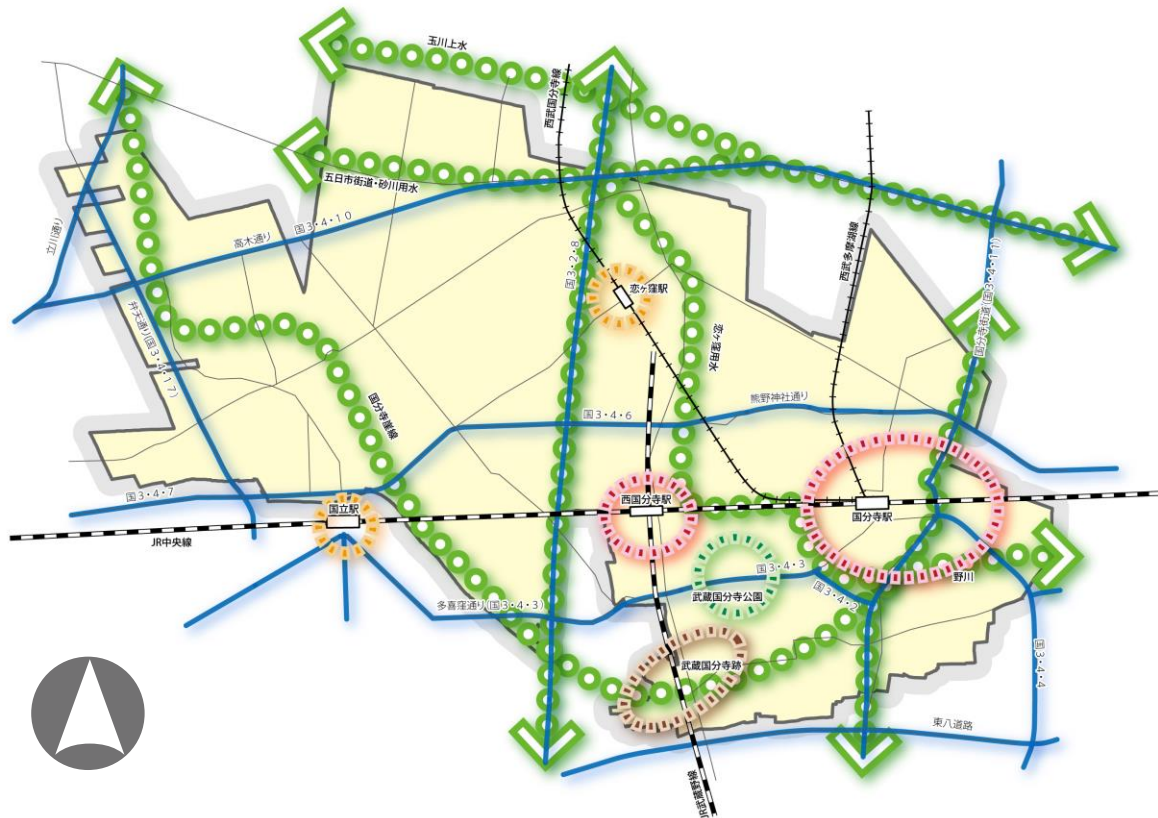
・広域交通のネットワークを確立し、広域的な連携の強化を目的とする都市の骨格となる主要な都市計画道路を『主要骨格軸』と位置づけ、交通の利便性や都市生活の安全性・快適性を高めます。

[水と緑の軸 / 国分寺崖線、野川、恋ヶ窪用水等]

・国分寺崖線、野川、恋ヶ窪用水や、連続的な緑の空間を創出できる幹線道路を『水と緑の軸』と位置づけ、こうした自然資源を守り・活かしながら、緑豊かな都市空間を創出し、都市生活の快適性を高めます。



■ 主要骨格軸となる国3・4・6号線



	商業・業務の集積による賑わい、多様な人々の交流により新しい文化を創造する『都市生活・文化交流の拠点』		市民が集い、憩い、交流する『ふれあいの拠点』
	歴史文化を継承し、国分寺の原風景を伝える『歴史文化の拠点』		日常生活の利便性を向上させ、更なる地域発展を目指す『地域振興拠点』
	交通の利便性や都市生活の安全性、快適性を高める『主要骨格軸』		緑豊かな都市空間をつくりだし、都市生活の安全性を高める『水と緑の軸』

3-2. 個性豊かで魅力あふれる地域のまとまり

- 市の魅力を高めていくには拠点・都市軸だけでなく、各地域ごとのまとまりを感じることできるまちづくりを展開していく必要があるため、地域活動やコミュニティ形成、防災活動の中心的な役割を担う公共施設が一定程度集積する一帯を『地域中心核』と位置づけます。
- これを中心に、身近な生活圏でまとまりのある地域を単位として、市街地の成立ちや地域の特性を踏まえて、それぞれに個性と魅力あるまちをつくります。



地域中心核を形成する一帯

- ①第七小学校，第二中学校，本多公民館・図書館，本多児童館 ⇨ 国分寺駅北口再開発ビルの一帯
- ②第一小学校，もとまち公民館・図書館 ⇨ 本町・南町地域センターの一帯
- ③市民スポーツセンター，けやき運動場，けやき公園 ⇨ 第三小学校 ⇨ 北の原地域センターの一帯
- ④第九小学校，恋ヶ窪公民館・図書館，市民室内プール，生きがいセンターこいがくぼの一帯
- ⑤泉町公園（武蔵国分寺公園），第四小学校 ⇨ 第四中学校，武蔵国分寺僧寺跡の一帯
- ⑥第六小学校，第五中学校，並木公民館・図書館，しんまち児童館 ⇨ 北町地域センターの一帯 ⇨ 国分寺高校の一帯
- ⑦国分寺市役所，第一中学校 ⇨ 第十小学校，福祉センターの一帯
- ⑧内藤地域センター ⇨ 第五小学校の一帯
- ⑨第八小学校 ⇨ 西町地域センター，西町プラザ ⇨ 第三中学校の一帯
- ⑩第二小学校，光公民館・図書館，子ども家庭支援センター ⇨ ひかりプラザの一帯

3-3. 国分寺市の拠点・都市軸・まちづくり資源が集積した、こくぶんじトライアングルゾーン

<市内に広がる魅力的なエリア>

【市北部の魅力】

- 北部では、江戸時代の新田開発によって形成された農村集落があった五日市街道沿いなどにおいて、防風林として設けられた屋敷林や生垣とともに、地域を象徴する大木が多く残るエリアが広がっています。また、新田開発により短冊型に細長く広がっていた畑の区割りは、現在も北町や並木町をはじめとするエリアにその名残が見られます。また、ビオトープの環境が維持された窪東公園があり、市民が身近に自然とふれあい、学ぶことのできる場として親しまれています。



■ 屋敷林や生垣が残る五日市街道

【市中央部の魅力】

- 中央部では、西恋ヶ窪緑地（通称：エックス山）や、日影山周辺の樹林地が武蔵野の面影を偲ばせる貴重な雑木林として残っており、周辺の農地と一体となって、貴重な緑が集まったエリアが広がっています。また、親水空間として整備された姿見の池や市内に残る貴重な歴史文化資源である恋ヶ窪用水路跡が残っています。



■ 西恋ヶ窪緑地
（通称：エックス山）

【市西部の魅力】

- 西部では、新幹線開発の礎となった公益財団法人鉄道総合技術研究所が位置し、敷地内は緑豊かな空間になっています。また、その北側に広がる崖線周辺には、地域の貴重な歴史文化資源である西町の胎内堀跡、光町の稲荷神社や西町の観音寺、神明社等の神社が地域の緑の拠点として残り、豊かな自然と昔ながらの面影を残すエリアとなっています。



■ 敷地内にまとまった緑が残る公益財団法人鉄道総合技術研究所

【市南東部の魅力】

- 南東部では、駅北口の再開発が進む国分寺駅や駅南口、駅東地区の再開発が完了した西国分寺駅、史跡整備が進む武蔵国分寺跡等が位置するとともに、国分寺崖線の貴重な緑が豊富に残っています。また、国分寺崖線沿いには、環境省選定の名水百選の一つであるお鷹の道・真姿の池湧水群や、都立殿ヶ谷戸庭園内や東京経済大学構内の新次郎池等の湧水が多く残され、市内外の人から親しまれるエリアです。



■ 再開発が完了した西国分寺駅東地区再開発事業

<本市の拠点・都市軸・まちづくり資源が集積した こくぶんじトライアングルゾーン>

- 市内に広がる様々な魅力的なエリアの中でも、南東部に位置する拠点・都市軸・まちづくり資源が集積したゾーンを、『こくぶんじトライアングルゾーン』に位置づけます。
- ここでは国分寺駅や西国分寺駅、武蔵国分寺跡等といった拠点や国分寺崖線、野川や主要幹線道路による都市軸、更にそれらの周辺に分布する崖線の緑、農地、社寺仏閣、公共施設等といったまちづくり資源を最大限に活かして、その魅力を守り、高めていきます。
- ゾーン内の拠点整備とともに、今後は、武蔵国分寺跡やお鷹の道等といった資源を観光に活かしたまちづくりを進めていくことで、市内外の人が訪れる魅力溢れるエリアとしていきます。
- 更に、市内外の人が気軽に利用できるよう、交通等の条件を整えていきます。
- そして、『こくぶんじトライアングルゾーン』でのまちづくりをモデルとして、市全域に国分寺らしいまちづくりを広めていきます。



■ 国分寺駅
[都市生活・文化交流の拠点]



■ 西国分寺駅
[都市生活・文化交流の拠点]



■ 武蔵国分寺跡
[歴史文化の拠点]



■ 武蔵国分寺公園
[ふれあいの拠点]



■ 国分寺崖線（西元町二丁目）
[水と緑の軸]



■ 国3・4・3号線（多喜窪通り）
[主要骨格軸]



■ お鷹の道
[まちづくり資源]



■ まとまりのある農地（西元町三丁目）
[まちづくり資源]



■ 国分寺
[まちづくり資源]

4. 将来都市構造の実現に向けた主要施策

将来都市構造図で示した20年後の姿のうち、中間年までに取組む主要施策を示します。

⇒ 中間年までの優先性：p. 130～144 参照

